

10月21日オープン例会の卓話は、三枝成彰様による「クラシック音楽はわずか150年のあいだにしかない？」でした。クラシックとは、音楽、楽譜のある・ない、文化等、多岐にわたるお話をさせていただきました。



WEEKLY REPORT

東京ベイロータリークラブ

TOKYO BAY ROTARY CLUB

国際ロータリー 第2580地区 東分区
VOL.31 No.7 第1370回 2021年10月28日



Serve to Change Lives
シェカール・メータ会長
(インド・カルカッタ-マハナガルRC)

奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

世界で、日本で、地域で、第2580地区ガバナー
良いことをしよう 若林英博(東京麹町RC)

地域社会に関わろう 会長 原田俊彦

本日のプログラム

第3回クラブ協議会

次回以降の予定

11月4日 第4回クラブ協議会
(ガバナー公式訪問)

11月9日 江東RC・ベイRC合同例会

2021-22年10月度 理事役員会議事録

(1)審議・報告事項

①11月度プログラム予定について:承認

②9月度会計報告について:承認

③宮島会員の退会について・会友へ就かれることについて:退会について承認、会友に就いていただくことを承認。

④家庭集会について

11月は、ガバナー公式訪問、江東RCとの合同夜間例会等もあり、未だコロナウイルス感染拡大の懸念も消えていないことから、秋の家庭集会は中止。

⑤年末家族会について(12月9日):昨年度同様、会員のみ参加の会とする。

⑥認定NPO法人「夢職人」への支援に関しまして

子供食堂の1食が800円ということから、100食分、80,000円をニコニコより寄付。その他の活動は、個々に対応いただく。

2021年10月21日
第1370回 例会報告

会員数	出席	出席率	前々回訂正出席率
19人	16人	84.21%	10月7日 100%

■ 点 鐘

■ ロータリーソング「我等の生業」

■ ゲスト:(卓話者)三枝成彰様

玉泉院住職 井上慶亮様、(株)ウエスト 松本明人様、許洋子様

■ ビジター:国際ロータリー第2580地区 ガバナー 若林英博様(東京麹町RC)

<会長報告>

・7ベイ友好会で交流のある、釧路ベイロータリークラブの漆崎隆様が、国際ロータリー第2500地区のガバナーに就任され、先日、地区大会が開催されましたので、祝電をお送り致しました。その祝電に対し、お礼状を頂きましたので、ご報告します。

<幹事報告>

・本日、例会に先立ち、10月度の理事役員会を開催致しました。詳細は裏面をご覧ください。

<伝達・贈呈>

・なし



ニコニコボックス



若林 英博ガバナー オープン例会、楽しくお迎えしましょう。

原田 俊彦君 本日は、オープン例会です。よろしくお願いいたします。

田中 保 君 オープン例会、よろしくお願いいたします。三枝様、ようこそ。

許 瑛子 君 三枝先生、本日は、ありがとうございます。卓話、よろしくお願い致します。

土屋 東明君 お客様、皆様、ようこそ。

荒井 節子君 秋を通過、一気に初冬を感じになりましたね。本日の卓話、10カ月振りに実現となりましたね。三枝様、楽しみにしておりました。よろしく♡

野木 芳宏君 オープン例会、楽しくやりましょう。

波多野幸雄君 本日は、三枝さんの卓話、楽しみにしています。

工藤 久志君 三枝成彰さんをお招きしてのオープン例会、楽しみにしています。

水谷 文彦君 三枝様、卓話楽しみにしています。

石渡 秀雄君 本日オープン例会です。三枝さん、よろしくお願い致します。

林 茂男 君 三枝様、卓話楽しみにしております。若林ガバナー、ようこそ。

森 達郎 君 本日の例会、楽しみにしていました。音楽の話はなかなか聞けません。

金子高一郎君 本日のオープン例会。三枝様、卓話、宜敷くお願い致します。

若林ガバナー、我(わが)ホームクラブへようこそ、お越し頂きました。

岡本 隆一君 IM以来、久しぶりです。三枝様、卓話よろしくお願いいたします。若林ガバナーようこそ!

三宅 郁子君 三枝様、よろしくお願い致します。

合計 35,000円

■ 例会日 毎週木曜日 12:30~13:30

■ 例会場 〒103-8520 東京都中央区日本橋蠣殻町2-1-1

ロイヤルパークホテル TEL 03-3667-1111・FAX03-3667-1615

■ 事務局 〒130-0013 東京都墨田区錦糸1-1-5 Aビル6F

TEL 03-5637-4608 ・ FAX 03-5637-4611

E-mail tokyobay@club.email.ne.jp

■ 役員 / 会長 原田 俊彦

会長エレクト 石渡 秀雄

幹事 田中 保

副幹事 波多野幸雄

会報委員長 宮島俊雄

10月21日オープン例会、三枝さん、良い卓話で大成功でした。若林ガバナーも飛び入り参加で感激しておりました。我がベイのプログラムを中心とするクラブ奉仕委員会の活躍をはじめ、許さん、金子さんの、人と人との間、人間の**間柄の美学**が実を結んだオープン例会で大成功でした。この内容だと、今期ガバナーの期待する「元気の出るクラブ」(面白く、楽しく、為になる例会)クラブ活性化に繋がる良い場面でした。

※ガバナーには以下のものを差し上げました。

①来会の若林ガバナー「8月号のガバナー月信」に茶道の「お点前」を修練すると同じく、ロータリーも例会他で繰り返し「学ぶ、知る、そして真髄に触れれば興味が増し、より楽しくなる」と記述。確かに仰る通りですね。以下、私の感じたことを…

◎茶道の「お点前」

- ・「**相手を思う心**」でお茶を入れる。
- ・心を込めて美味しいお茶を点てる。
- ・**茶道の稽古を繰り返すこと**(礼儀作法)
- ・先人の心を繋ぐ

◎ロータリーの「Service」(Serviceの語句 ランダム大辞典に)

「**相手を思う心**」「相手のためになる行為」

「**相手を思う心**」と同じ

(1) Serviceは論語の「忠恕」だ!!・・・と佐藤千寿PG

「忠」→内なる真心に背かない 「恕」→真心による他人への思いやり

(2) 五大奉仕の職業奉仕 (Vocational service)

※職を営む(儲ける)心と、相手を思う心・・・とは「**同一の心**」

と、ロータリー定義・・・深川純一PG

※必然的に職業を営む過程に「世のため人のためという倫理性」を要求する。

故に職業と倫理が一元となる・・・小堀憲助PG

クラブサービス・社会サービス・国際サービス・青少年サービスも同じ

(3) ロータリーのService

綱領(目的)の前文にthe ideal of service とあり、条文の

その1 opportunity of service 2 opportunity to serve society

3・4 the Ideal of service 「**全て、相手を思う心**」の意。

(4) Enter to Learn and Go forth to Serve

例会で心を磨き、出て「相手を思う心・行為」をせよ! の意

“例会でお点前”をせよ!! ですね。

ロータリーのServiceは「相手を思う心」の意で語句が使われていて日本の「奉仕」の与える、恵むより概念が深く、広い、日米戦争が近くなり急遽「奉仕」と訳し今日に至る。

②10月米山月間なので私が9月迄に作成しておいた米山年表(略歴)を差し上げました。ガバナーに、この職業奉仕の功績の中で説明したのは米山梅吉翁が信託銀行を起業、中小企業あるいは大企業に資金融資をするという、最も根幹となる職業奉仕をやっていたことです。(この米山年表をご希望の方は事務局までご連絡下さい)

③私の日頃作っているロータリー年表に、今年度の若林ガバナー、岡本ガバナー補佐の名も入れ、この年表も進呈しました。

④日本ロータリー100年記念誌と共に「100人のロータリアン」という創刊号が出ました。その14頁に小林雅一さんを取り上げ私の寄稿文が掲載されました。

貧しい農家に生まれ、苦学し起業、世界的メーカーへと育てた奮闘努力の人。米山梅吉氏にロータリー精神を学び、その意を継いで、戦後日本ロータリーの発展に力を尽くした。



第2580地区

小林 雅一 (Kobayashi Masakazu)

1888年生 1966年没
1929入会 【製物製造】
会長年度 1949-50 G年度 1952-53
RI理事年度 1957-59
RI副会長年度 1958-59

単身上京し、後に運米。
生涯の友と、内外編物を起業

小林雅一氏は、1888年、甲州(現:山梨県韮崎市)の貧しい農家に生まれた。13歳で単身上京し、第十銀行の頭取佐竹作太郎宅の食客となって、銀行で働き、夜学に通って学んだ。20歳のとき、船底に退入って渡米。サンフランシスコの東ヶ崎商店で働きながらオハイオ北部大学商科の夜間部にて修学。1914年に卒業すると、ニューヨークの日本雑貨商社「森村組」(現:森村商事株式会社)に入社した。

一年後、小林氏に運命の出会いが訪れる。相手は同い年の依田耕一氏。慶應義塾大学卒業後、連続の米山梅吉氏の助言により渡米し、イーストマン・ビジネスカレッジにて修学するかわり、商売の実践を学ぶため森村組に入社してきたのだった。

深夜まで机を並べて切確琢磨する小林氏と依田氏は、まもなく将来を話し合う間柄になった。

当時のアメリカは、自動車産業など先端的な技術によるモノづくり産業が好調だった。2人は、いつかメー

カーを作ろうと決め、小林氏は、コロンビア大学の夜学で工場経営を学ぶようになった。また、第一次世界大戦の影響でドイツからの輸入が途絶えつつあるなか、兵士用の靴下を日本から取り寄せて軍に売り込んだこともあった。日論見は見事に当たり、取引は成功。しかし、「これは靴下じゃない、足を突っ込める袋だ」と酷評され、後に靴下製造に着目するきっかけになった。

1920年、愛知県御器所村(現:名古屋市長和区)に、内外編物(現:ナイガイ)を設立。アメリカから最新の機械を持ち込み、良質な社下の製造販売を始めた。そして、その後半世紀近くにあたって、力を合わせて内外編物の育成に取り組み、数々の苦難を乗り越えて、日本屈指のアパレルメーカーへと育て上げた。

ニューヨークで米山氏と邂逅を知り、ロータリーに傾倒

1917年の冬、小林氏が依田氏から、紹介されたのが、訪米中の米山氏だった。激励を受けた小林氏はいたく感動し、米山氏もまた、明晰な頭脳と奮闘努力の人物を有する小林氏に目をかけるようになる。

1920年、日本初となるロータリークラブを東京に設立した米山氏は、1924年にRI本部から初代スペシャルコミッショナーに任命された。米山氏の意を受け、東海地域で新たなロータリークラブの設立を目指すこととなった小林氏は、熱心かつ慎重に準備を進め、1924年12月、伊藤次郎左衛門氏を会長に迎えて名古屋RCを設立。自身は幹事となって運営にあたり、軌道に乗せた後、東京RCに帰還し、直ちに幹事となり、驚くなかれ解散まで13年間の永き互って奮闘の努力をした。

日本ロータリーの戦後復興と、奨学金事業の育成に尽力

終戦間もな(ロータリークラブ再

興の動きが始まると、小林氏は中心人物の一人となって奔走。1949年3月23日に再結成された東京RCの会長に就任し、同年4月27日の伝説式でチャーターを受け取った。米山氏の意を継承し、執念を持って渾身努力を重ねた結果であった。

その後、東京RCの古澤丈作氏が立案した「米山基金」構想実現のため、1957年に「ロータリー米山奨学委員会」を結成。自ら委員長となり、奨学金事業の育成と発展に尽力した。また、1958年にはRI第一副会長に選出され、日本ロータリーの発展を全世界に知らしめた。



60・61区大会でE.S.モート氏と小林雅一大妻

買ったロータリー精神

内外編物の35周年記念誌(1955年刊)に寄せた挨拶には、「米山翁の不滅の遺徳たるロータリー精神の移核所謂『自己を超えて奉仕』」己の職業を通じて社会への奉仕」と言うこの奉仕の精神こそ、我々全従業員の精神であって、この精神こそ我々を今日にあらしめた最大の賜であります」とある。小林氏にとって、経営もまた、ロータリーの思想、精神、四つのテストの実践であったのだ。

日本ユネスコ協会、日本YMCAなど多方面にわたり公共福祉に尽力し、国内外のロータリアンに広く親しまれ、敬愛された小林氏は、生涯を通じてロータリー精神を忠実に実践し、1966年2月27日、77歳の生涯を閉じた。

林 茂男(東京へ帰る)